⑻　全データの電力総和を次式により求め、これをP_Cとする。

$$P_C=\left(\sum_{i=1}^{n}E_i\right)\times\frac{S_W}{RBW\times k\times n}$$

P_C　：掃引周波数幅内の電力総和の測定値
E_i　：１サンプルの測定値
S_w　：参照帯域幅
ＲＢＷ：分解能帯域幅
ｋ　：等価雑音帯域幅の補正値
ｎ　：掃引周波数幅内のサンプル点数

⑼　スペクトル分析器を１⑵のように設定し、スペクトル分析器の中心周波数を⑶において許容値を超える各周波数とする。

⑽　スペクトル分析器を掃引して、全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

⑾　全データについて、dB値を電力次元の真数に換算する。

⑿　全データの電力総和を⑺と同様に求め、これをP_sとする。

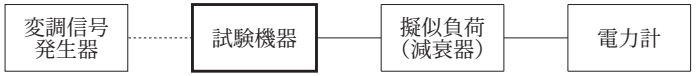
⒀　不要発射電力について次式を用いる。

不要発射電力＝（P_s／P_C）×P_b

P_s　：中心周波数を許容値を超える各周波数としたときの全データの電力総和
P_C　：中心周波数を搬送波周波数としたときの全データの電力総和
P_b　：バースト内平均電力

五　空中線電力の偏差

１　測定系統図



２　測定器の条件

⑴　平均値指示電力計は、熱電対若しくはサーミスタによる熱電変換型又はこれらと同等の性能を有するものとする。ただし、バースト長がバースト繰り返し周期に比べ極めて短い場合又はバースト周期が長時間になる場合は、スペクトル分析器を用いることができる。

⑵　減衰器の減衰量は、電力計に最適動作入力レベルを与えるものとする。

⑶　バースト長がバースト繰り返し周期に比べ極めて短い場合又はバースト周期が長時間になる場合の平均電力測定時のスペクトル分析器の設定は、次のとおりとする。

中心周波数	搬送波周波数
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	１MHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍以上
掃引時間	１バースト継続時間以上
掃引モード	単掃引
検波モード	サンプル

⑷　尖頭電力の測定において、スペクトル分析器を使用する場合のスペクトル分析器の設定は、次のとおりとする。

中心周波数	搬送波周波数
掃引周波数幅	設備規則に規定する占有周波数帯幅の規定値の２倍から3.5倍まで
分解能帯域幅	１MHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍以上
掃引時間	測定精度が保証される最小時間（バースト波の場合は、１サンプル当たり１バーストの連続時間以上）
掃引モード	連続掃引（波形の変動がなくなるまで）
検波モード	ポジティブピーク
表示モード	マックスホールド

３　試験機器の状態

⑴　変調は、通常の変調状態の連続送信状態とし、変調度は通常の使用状態と同等とする。

⑵　尖頭電力を測定する場合において、変調信号によって尖頭電力が変動する場合は、最大の値となる変調条件とする。

４　測定操作手順

⑴　電力計の零点調整を行う。

⑵　試験機器を送信状態にする。

⑶　平均電力を測定する場合は、平均電力計の値を測定値とする。ただし、バースト波の場合は、バースト時間率を一定にして送信し、繰り返しバースト波電力P_Bをバースト周期に比べて十分長い時間にわたり電力計で測定し、１バースト区間の平均電力Ｐを次式により算出する。

Ｐ＝P_B×（Ｔ／Ｂ）
Ｔ：バースト繰り返し周期
Ｂ：バースト長

⑷　平均電力の測定において、バースト長がバースト繰り返し周期に比べ極めて短い場合又はバースト周期が長時間になる場合は、スペクトル分析器を２⑶のように設定し、中心周波数を割当周波数として、バースト内平均電力を測定する。測定値がバーストごとに変動する場合は数回測定し、バースト内平均電力の最大となる値を測定値とする。

⑸　尖頭電力の測定にスペクトル分析器を使用する場合は、２⑷のように設定し、中心周波数を割当周波数として、尖頭電力を測定する。

５　試験結果の記載方法

結果は、空中線電力の絶対値をW単位で、工事設計書に記載される空中線電力に対する偏差を％単位で＋又は－の符号を付けて記載する。

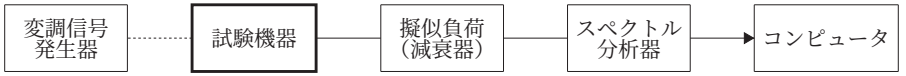
６　その他

⑴　バースト時間が電力計の平均時間よりも長く測定が困難な場合は、電力計の測定時間をバースト時間以下に設定し、バースト内平均電力を求めることができる。

⑵　スペクトル分析器を用いて測定した場合は、当該周波数におけるスペクトル分析器の測定値について標準信号発生器等を用いて確認する。

六　隣接チャネル漏えい電力

１　測定系統図



２　測定器の条件

スペクトル分析器は次のように設定する。

中心周波数	搬送波周波数 搬送波周波数＋100kHz×（ｎ＋１） 搬送波周波数－100kHz×（ｎ＋１）
掃引周波数幅	全電力（搬送波電力）測定時：ｎ×200kHz 上側及び下側隣接チャネル漏えい電力測定時：199kHz
分解能帯域幅	１kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間（バースト波の場合、１サンプル当たり１バーストの継続時間以上）